



(公社)日本ユネスコ協会連盟

(ユネスコ憲章前文抜粋)

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない



広島ユネスコ協会 会長 松岡盛人

本日、終戦75年目の節目を迎えました。この「平和の鐘を鳴らそう2020」の集いは、今回で20回を数えますが、新型コロナウイルス感染防止のため、例年より規模を大幅に縮小して開催することとしました。

私たちは、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」というユネスコ憲章の理念のもと、「ヒロシマの心」を大切にしつつ、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現に貢献するため、草の根活動に取り組んでいます。

しかしながら、現在、世界秩序が激変する中、平和への第一歩である核兵器の廃絶にはまだほど遠く、その道は険しいものがあります。昨年、広島を訪問されたフランシスコ・ローマ教皇は、湯崎広島県知事宛てに送られたメッセージの中で、

「平和を実現するためには、最も強力な破壊的な核兵器を捨て去る必要がある」と核兵器の廃絶を改めて訴えられています。

核無き平和な世界の実現は、地球市民の共通の課題であり、願いでもあります。核兵器禁止条約の発効に必要な批准国は、あと6か国となりました(8月15日の挨拶時点)。(10月24日には50か国・地域に達し、来年1月22日発効予定となりました)。唯一の戦争被爆国であり、国際平和へとリードすべき日本として、早期に英断をもって批准するよう強く望みます。

本日は、コロナ禍の中、感染防止のため、平和の鐘はつきませんが、原爆・戦争犠牲者の方々に慰霊するとともに、戦争や核兵器のない平和な世界の実現を目指し、一人一人が心の中で、思いを込めて平和の鐘を鳴らしましょう！



被爆者の思いを語り継ぎ、 相手を認め尊重すること

広島大学附属高等学校生

柚 木 優里奈

75年前の今日、日本は終戦を迎えました。1945年8月6日、広島では原子爆弾によって、そこに暮らす人々の命や生活が一瞬にして奪われました。当時、75年間草木も生えないと言われた広島ですが、今では平和を象徴する都市として復興を遂げています。多くの人々の強い意志と行動によって、日本は戦争を75年間経験していません。16歳の私は、この平和な広島の中で過ごしてきました。

私は、高校生平和大使として核兵器廃絶に向けた署名活動を行っています。私の手を握り、「私たち被爆者の思いを届けてください」と言ってくださった被爆者の方、目に涙を浮かべながら署名してくださった外国人の方に出会い、勇気づけられました。



また、昨年、被爆者の方取材しました。「私と同じ苦しみを二度と味わってほしくない」「若者には核廃絶の思いを発信し続けてほしい」というメッセージをいただきました。私は自分にできることは何かを考えます。

私は何をすべきか迷いくじけそうになった時、原爆供養塔の前にたたずみます。その中には、推定7万人もの遺骨が納められています。原爆投下後の混乱の中、身元もわからないまま焼かれた遺骨です。亡くなった方の無念の思い、奪われた未来、奪われた生活、そして残された人々の深い悲しみを思い、胸が痛みます。この平和公園の下には原爆で焼かれたかつての街並み、多くの人々が眠っているのです。それが現実です。

平和公園には、赤や白の夾竹桃が咲いています。



廃墟と化した広島でいち早く咲き、原爆から復興に立ち上がる人々の心を支えた花です。私は、平和公園で夾竹桃の花を見ると勇気づけられます。そして、決意を新たにします。

核兵器は人類の安心と安全を脅かす非人道的な兵器です。核兵器がある限り、私たちはその恐怖の中でおびえながら暮らしていかなければなりません。いつ、広島、長崎で起こった惨禍が、繰り返されてもおかしくはないのです。

私には、思いを同じにする多くの仲間がいます。被爆者の思いを大切に、仲間との対話を重ねながら核廃絶に向けて、自分のできる取り組みを行っていきます。この平和の鐘に思いをはせて、次のことを誓います。正しい事実を知り、深く考え続けること、被爆者の思いを語り継ぐこと、そして、相手を認め、尊重することです。

みなさん、思いを一つにして被爆地広島から平和への思いを発信していきましょう。



私はどんなに小さくても、何か行動することが大切であると考えます

広島大学附属高等学校生

船 本 祥 子

私たち広島の高校生は、第2次世界大戦や原子爆弾について教科書や資料館でのフィルムや資料、または被爆者の話を聴いて学びました。私たちは戦争を直接経験した世代ではありません。しかし戦争から学ぶことで、世界平和を願い、そして（戦争による）悲劇は繰り返してはいけないと感じます。

第一次世界大戦が終結し、わずか20年後に第二次世界大戦が勃発しました。その後も戦争や紛争が世界各地で繰り返されています。世界平和には何が必要なのでしょう。戦争を防ぐために、私たちは何をする必要がありますのでしょうか。世界平和を願うだけでは、十分でないことは確かです。私たちに必要なことは、世界平和に向け行動を起こすことです。☆では、今、私たちにできることは何でしょうか？

私はどんなに小さくても、何か行動することが大切であると考えます。例えば、被爆者の話や願いを次世代へと伝えること。もし政治的、社会的、経済的な問題に疑問があれば、それに対して声を上げることもあるでしょう。人々に平等に接することもそうです。人は国籍や性、また肌の色で判断されるべきではないのです。また、貧困、テロ、



国際紛争などのような国際的な問題に対して目をそらさないことです。それらの問題も自分の問題として考える必要があります。



☆では、未来の私たちには何をすべきなのでしょう。近い将来、私たちの一人が、為政者や科学的分野の第一人者などのように、意思決定をもつ権利を有する日が来るでしょう。その時、私たちは正しい選択をしなければいけません。それは、世界を戦争のように悪魔的な破壊行為に導く選択ではなく、世界平和へと導く選択です。



広島のパークに慰霊碑があります。そこには、「安らかに眠ってください。過ちは繰り返しませんから」と刻まれてあります。私たち一人一人が、小さいけれども偉大な何かをしつつ、この言葉を自分の言葉としてとらえ、世界平和へと進んでいかなければいけません。そうすることによって、私たちが願う世界を作ることができるでしょう。



「第23回 広島ユネスコ活動奨励賞」

3校と4団体に決まる

広島ユネスコ協会では、ユネスコ憲章の理念を踏まえて、「平和の文化」を築く実践的な活動の育成と推進に資するため、今年度も「広島ユネスコ活動奨励賞」事業を実施し、優れた活動を継続的に行っている次の3校と4団体を顕彰することといたしました。

なお、授賞式は新春1月30日（土）に執り行います。
（教育部会長 湯浅克廣）

【学 校 部 門】

○広島市立三入小学校（校長 坂口 由紀子）

2014年に広島市北部を襲った「8・20広島豪雨災害」の被災地になったことを契機として、6年生を対象に防災学習をスタートさせ、2年後には地域住民や団体の協力の下に独自教材による取り組みを全学年に拡大して防災への知識や自覚を育て、地域の未来をも考える力を育てている。

○広島市立船越中学校（校長 升原 一昭）

地域の団体と生徒会が連携し、地域から完全に絶滅していた国の絶滅危惧Ⅱ類に指定されている誰故草（エヒメアヤメ）を蘇らせて保存・復活に尽力するとともに、地域の一員として各種の地域行事に参加することを通して、地域社会に貢献し郷土や自然環境を大切にしようとする心を育てている。

○広島県立五日市高等学校（校長 沖田 浩二）

1999年発生の「6・29集中豪雨災害」をいつまでも風化させず、地域における防災を意識して迅速で適切な行動が取れ、地域に貢献できる生徒の育成を目指して、全学年を通じた系統的で充実した防災体験活動を実施している。また、地域の小学校とも連携して防災に関わる出前授業や体験学習を行い、防災意識の醸成に努めている。

【社 会 部 門】

○市民グループええじゃん（代表 栗林 克行）

日本で暮らす外国人の生活支援を図る外国人無料相談をはじめとして、生活に必要な情報の多言語発信、日本語学習・就学・就労支援、子弟への学習支援を行うとともに、外国人とのトラブルを想定した体験会や国際イベントでの市民交流なども実施し、多文化共生社会の充実を目指した多彩な活動を展開している。

○アース・ミュージアム元宇品構想推進委員会 （委員長 門 隆興）

地元住民と行政・有識者が連携を図り、原生林の面影が残る美しく魅力ある元宇品を守り次世代に継承しようと、「ありのままの自然の確保」「自然と出会いの場づくり」「自然学習の場づくり」の3つの方針を掲げ、自然観察会や自然観察学習支援、島内の清掃活動などを実施し、環境保護に対する市民への啓発・意識の高揚に努めている。

○被爆体験を継承する会（代表 甲斐 晶子）

原爆被爆者体験証言や埋もれている貴重な原爆・核被害・核兵器廃絶等に関する映像を広く一般に紹介することを通して、被爆体験の継承、核兵器廃絶、放射線被害の実相、戦争やテロの脅威、深刻な環境汚染などに対する市民の関心を高め、核なき平和な世界実現に寄与する活動に取り組んでいる。

○ヒロシマ・フィールドワーク実行委員会 （代表 中川 幹朗）

広島平和記念公園及びその周辺を巡る「ヒロシマ・フィールドワーク」を毎年実施するとともに、旧中島地区に居住していた方を招き当時の街や暮らしの様子を聴く会を開催したり、証言された話を冊子にまとめて刊行したりするなど、甚大な被害があった被爆の実相を次の世代に継承する活動を行っている。

<会員募集>

ユネスコの精神に賛同し、協会の活動に参加したり、支援をしていただける方を募集しています。年会費（個人会員の場合）3,000円。青年（～35歳以下）は2,000円。申込先：森木事務局長090-7132-2284、又は広島ユネスコ協会HPから検索。当協会URL：<https://www.unesco.or.jp/hiroshima/> 入会案内へ。

